

# 日本農業新聞

## 野菜食べて 生き生きと

〈19日、東京・有楽町の日比谷パティオで開いたメリー・ファームング・フェスタで〉  
子どもたちは、野菜が大の苦手だった。だが、2000年にマラソンを始め、毎日体を動かして汗をかこううちに、野菜を食べたいと思うようになった。それまでは、野



川谷 長恵さん  
長理恵さん

菜売り場に行ったこともない状態だった。

ブロッコリーを買って塩ゆでにしてつまんでみると、ものすごく甘くてフルーツのような味がした。自分自身が、野菜を必要としていることを感じた。



そこから栄養を学び、野菜がおいしいと評判の店を訪ね、やがて野菜ソムリエの資格を取った。今では、ない

駄目なほど野菜好きになった。現在、野菜を少しでも多くの人に食べてもらいたいと思って活動している。野菜が体

に優しく、元気になることを伝えたい。また、今後は食育にも目を向けていきたいと思っている。

(女優、野菜ソムリエ)

## 農を楽しむ 素人もつと

〈同じくメリー・ファームング・フェスタで〉

農業のアマチュアを増やすことを提案したい。野球やサッカーでトップレベルのプロが活躍できるのは、充実した質と数のアマチュアが支えて



島 永行さん  
永敏行さん

いるからだ。

プロの農家は、米を作るため里山や水路の整備、雑草取りなどを無償で行っている。それは巡り巡って、生活に必要な水の確保などにもつなが

っている。

生命を生み出す土は、人間にとって最も重要な存在だ。だが都会では、土と触れ合う場が少なくなった。雑木林や土の用水路など、子どもの遊び場も失われつつある。

素人で農を楽しみたい農業のアマチュアを増やすことで農的な生活空間を取り戻し、プロを支えてほしい。やれることはいくらかもある。一歩踏み出して取り組みたい。また、子どもには農業の楽しさを伝え続けることが大切だ。(俳優、青空市場代表取締役)